



自治医科大学附属病院

専門研修プログラムのご案内



自治医科大学附属病院は19領域すべてにおいて 充実した専門研修プログラムを整備しています。



病院長 川合謙介

自治医科大学附属病院は、特定機能病院として高度医療を担いながら、栃木県・埼玉県北部・茨城県西部を広くカバーする地域基幹病院として基本的疾患にも対応していますので、バラエティーに富んだ豊富な症例を経験できます。充実した教育指導体制は自治医大の伝統です。基本領域のすべてで、充実したプログラムを提供し、実力のある専門医を育成しています。



卒後臨床研修センター センター長 山本真一

初期臨床研修では「総合力を鍛える」を合言葉に、研修目標を達成できるようバランスのとれた研修プログラムを組むことによって、医師としての基礎を固めるとともに、19領域すべての専門研修プログラムへの橋渡しができるよう工夫をしています。初期後期研修から新専門医制度のキャリア形成まで全力でサポートし、希望を実現することを約束します。



卒後臨床研修センター 後期研修管理部門 佐藤健夫

2018年度から新専門医制度での後期研修がスタートしました。自治医科大学附属病院では地域医療から先進医療まで専攻医の皆様が充実した後期研修を行えるように病院全体で取り組んでいます。このパンフレットをご覧頂きご興味のある領域まで遠慮なくご連絡頂ければと思います。志の高い皆様をお待ちしています。ぜひ共に学びましょう。

内科

全国の初期研修医の皆さん、
こんにちは。自治医科大学
内科学講座主任教授の山本
博徳です。

我々の自治医科大学附属病
院における研修には三つの
大きな特徴があります。ま

ず一つめですが、自治医科大学の卒業生は自分の出身
県での義務年限があり母校に残ることができないので、
数名の栃木県卒業生を除き他大学を卒業したレジデ
ントの方々为本学に集まってきて下さるということです。
したがって、ほとんどが初対面の仲間であり、一斉に
スタートするという同じ条件のためか、すぐに仲良く
なり、お互い助け合って研修している姿が見られます。
学年が上がってスタッフになってもこれが続くようで、
内科系・外科系の境目さえ超越した風通しの良い医療
の原型になっています。二つめの特徴は、自治医科大学
附属病院は地域の第一線の病院という顔を持っている
ため、北関東全域や南東北から患者さんが来院され、
症例のバラエティーが非常に多いことです。普通に研修
していれば専門医取得の際の症例数で困ることはありません。
三つめは臨床研修に精通した内科各診療科ではありま
すが、実は研究の実力も全国屈指であり、研修に引き
続き入局してもキャリアパス形成に関しては信頼して
いただいで大丈夫です。大規模な大学病院で

ありながらも臨床、
教育、研究のバラ
ンスが取れている
ことも自治医科大学
内科学講座の特
徴です。

後期研修の方のための新しい専門医制度は、2018 年
度から開始されました。当院での内科専門医研修プ
ログラムについてはこちらをご覧ください。

https://www.jichi.ac.jp/naika/pdf/program_2023.pdf

内科系のすべてのサブスペシャリティに対応していま
す。



研修される皆さんの
ために平成 24 年度
にレジデントハウス
も完成しています。
完全個室で冷暖房設
備、洗濯機、冷蔵庫
もあり、もちろんイ



ンターネット回線も完備されています。大学病院見学
の際には是非、このレジデントハウスも見学してみ
て下さい。

最後に私自身からみた自治医科大学附属病院での研修
の良いところを書いてみたいと思います。栃木県は人
口も適度でゆったりとしていて、とてもいいところ
です。一方で 1 時間と少しで都心にアクセス可能
ですし、東京や横浜で開かれる学会や研究会にも
出席が容易なことは非常に大きなメリットと考
えています。またこの医療圏でのトップの医療機
関だからこそ大都会の病院よりも多く希少疾患
を目にすることも可能ですし、良いことばかり
だと私は思っています。一人でも多くの方
が自治医科大学附属病院で研修されることを
祈っております。

内科系スタッフです。皆様をお待ちしています！

【内科学講座ホームページ】



詳しくは <http://www.jichi.ac.jp/naika/> をご覧ください。

【卒後臨床研修センター ホームページ】新専門医制度の
案内や募集についての情報が掲載されています。

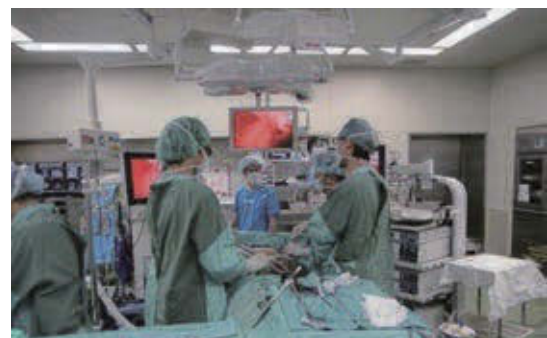
<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

【連絡先】内科学講座 (<http://www.jichi.ac.jp/naika/>) もしくは各診療科のホームページをご確認の上、ご希望の各診療科まで是非お気軽に御連絡下さい。



自治医科大学 外科専門研修プログラム2024

あなたの外科医としての第一歩を私たちと一緒に始めませんか？
あなたの期待に全力で応えます。



自治医科大学 外科学講座 栃木県下野市薬師寺3311-1
<http://www.jichi.ac.jp/geka/Senmoni.html>

外科専門研修プログラム 2024 のご紹介

研修プログラムの目的と使命

- (1) 医師としてまた外科医として安全で質の高い医療を提供できる外科医を育成する。
- (2) 標準的な医療を提供でき、患者への責任を果たせる外科医を育成する。
- (3) アカデミックマインドを有した外科医を育成する。
- (4) 外科学の横断的な診療連携により、地域医療に貢献できる総合的な外科医を育成する。
- (5) 外科領域全般から専門性の高い外科医を育成する契機とする。

専攻医の受け入れ数について

3年間 NCD 登録数は 21000 例で、専門研修指導医は 50 名で、2023 年の募集専攻医数は 14 名です。

研修プログラム説明会と専攻医の採用スケジュール

自治医科大学外科専門研修プログラム管理委員会は、説明会等を行い、外科専攻医を募集します。

【研修プログラム説明会】

現在、開催の形式を検討しております。(Web 上での開催を検討しております)

【専攻医の採用スケジュール】

プログラムへの応募者は、9月30日までに研修プログラム責任者宛に所定の形式の『自治医科大学外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出してください。申請書は以下の方法で入手可能です。

自治医科大学外科の website

<http://www.jichi.ac.jp/geka/Senmoni.html>

自治医科大学外科専門研修施設群

- 栃木県 済生会宇都宮病院 上都賀総合病院
とちぎメディカルセンターしもつが
国際医療福祉大学病院 小金井中央病院
JCHO うつのみや病院 那須中央病院
新小山市市民病院 石橋総合病院
芳賀赤十字病院 那須南病院 菅間記念病院
那須赤十字病院 佐野厚生総合病院
宇都宮記念病院
- 埼玉県 自治医科大学さいたま医療センター
上尾中央総合病院 さいたま赤十字病院
深谷赤十字病院
- 茨城県 常陸大宮済生会病院 古河赤十字病院
結城病院
- 群馬県 伊勢崎佐波医師会病院
- 長野県 松本市民病院
- 東京都 東京山手メディカルセンター
練馬光が丘病院 東京北医療センター
- 徳島県 県立中央病院 県立三好病院

連絡先

プログラム統括責任者

消化器一般移植外科 教授 佐田尚宏

同 統括副責任者

心臓血管外科 教授 川人宏次

【問い合わせ先】

各専門領域に関して

消化器外科・小児外科・移植外科・乳腺科

医局 (0285-58-7371, surgery@jichi.ac.jp)

心臓血管・呼吸器外科：

医局 (0285-58-7368, tcv3514@jichi.ac.jp)

プログラム全体に関して

遠藤和洋 (0285-58-7371, kendo@jichi.ac.jp)

皮膚科

皮膚は、人体の外表を覆う最大の臓器で、水分調節、体温調節、生体バリア、感覚器等としてのさまざまな役割を果たしており、生命を維持するために必要不可欠な機能を有しています。絶えず外的な刺激や環境変化、あるいは内的な異常にさらされることで様々な異常が生じますが、健常な状態では異常は自然に修復されます。病的な状態においては刺激によって生じた異常が修復されず、皮膚疾患として発症します。また、生まれつき皮膚に内在する異常によって発症する疾患もあります。皮膚科は内科、外科、感染症、腫瘍、遺伝子疾患、物理的障害など広範な領域を扱う診療科です。当医局は大学病院の責務として高度な医療を提供するとともに、栃木県全域のみならず隣接する他県における地域医療の向上に力を注いでいます。皮膚疾患でお困りのすべての患者の力になりたいと考えています。大槻マミ太郎教授をはじめ小宮根教授、神谷准教授が乾癬・アトピー性皮膚炎を専門領域としているため、乾癬や掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎の症例が特に多く、生物学的製剤や JAK 阻害剤などの新規治療を積極的に導入しており、新規治験も多数あります。また、高齢者人口が多いことから自己免疫性水疱性疾患が多いことも一つの特徴です。自治医科大学の周辺は畑も多く日光や那須などの山岳地帯にも近いため、非結核性抗酸菌症や深在性真菌症などの感染症も多くみられます。悪性腫瘍、良性腫瘍も、自治医科大学さいたま医療センターや形成外科との連携のもと、多数の症例を診療しています。症例は多彩であり、診断の難しい症例も数多く紹介されてきます。

成人になるまで診断のつかなかった遺伝性疾患、見過ごされていた母斑症、診断の難しい難治性潰瘍なども多く、遺伝子診断や PCR を用いた感染症の診断も積極的に行っています。研修医の先生方にとっては経験できる症例数と疾患の種類ともに豊富です。



皮膚疾患患者は皮膚だけでなく、さまざまな臓器の疾患を合併していることも多く、他科との連携が非常に重要で、相互のコンサルトを積極的に行っています。最近ではアレルギーリウマチ内科と共同で乾癬性関節炎外来を開設しました。学会発表、論文発表も積極的に行っております。2021年には日本皮膚科学会総会の主幹を務めました。バラエティに富んだ魅力的な教育講演やシンポジウムを数多くそろえ、コロナ禍の中、全国から多数の参加者がありました。

当科での豊富な症例を経験するため、他大学からの研修医も毎年多数要望があり、研修後各大学の主要なポストで活躍されています。

豊かな自然環境の中で、バラエティに富んだ症例に対するハイレベルな診療を数多く経験したいという熱意のある若手研修医の先生方には理想的な環境です。見学は随時可能ですので、興味のある方は是非お気軽にお問い合わせください。

詳しくは [自治医科大学 皮膚科学講座](https://www.jichi.ac.jp/usr/derm/)
<https://www.jichi.ac.jp/usr/derm/>
をご覧ください。



産婦人科

自治医科大学産科婦人科学講座は1974年に創設されました。本学の卒業生は、各自の出身県での義務年限があり、母校に残らないので、医局員の出身大学も様々です（総勢50名）。そのため、学閥などはなく、アットホームな雰囲気です。診療、研究に従事しています。さらに、大学の附属病院でありながら、周産期、婦人科腫瘍、生殖内分泌不妊の3分野とも症例が豊富であり、産婦人科臨床を万遍なく学べ、また、婦人科一般外来や思春期外来で「女性医学」についても学べます。

自治医大の年間症例数		
周産期	分娩数	約900件
	双胎数	約80件
婦人科腫瘍	子宮頸癌	約60件
	子宮体癌	約110件
	卵巣癌	約90件
生殖内分泌	ART	約300件
(高度生殖補助医療)		

初期研修で重点的に産婦人科研修が可能な「産婦人科志望コース」(※最長1年間研修)、また、後期研修用の自治医大産婦人科プログラムがあります(2019年度は7名、2020年度は7名、2021年度は4名、2022年度は6名が選択し後期研修中です)。詳しくは、<https://www.jichi.ac.jp/usr/obst/training/late-training/>をご覧ください。

研修施設群は、基幹施設(自治医大)と連携研修施設(芳賀赤十字、佐野厚生、国際医療福祉大学、那須赤十字、足利赤十字病院、上都賀総合病院、栃木県立がんセンターなど)です。栃木県内での効率的な研修が可能です。



<自治医大産婦人科プログラムの1例>

専門医取得には、専門研修施設群で通算3年以上の産婦人科研修が必要であり、本プログラムでは大学で2年間、連携施設で1年間の研修を予定しています(4

年目、もしくは5年目は連携施設で研修予定)。期間内に修了すべき要件としては、i)一定数の分娩、帝王切開、腹腔鏡下手術、生殖補助医療などの研修、ii)学会発表、iii)論文発表などがあります。

自治医大の症例数(1年間)	
()内は3年間で研修すべき件数	
経膈分娩(100)	400件
帝王切開(50)	500件
前置胎盤手術(5)	50例
浸潤癌手術(5)	200例
腹腔鏡下手術(15)	150例
体外受精(5)	300例

専門医取得に必要な症例数や学会・論文発表の機会も多数あり、余裕を持って専門医取得の準備をすることが出来ます。

また、平日夜間と土日祝日は、主治医制でなく当直体制で診療しています。急患受診、分娩、緊急帝王切開、緊急手術に備えて、常時3名で当直しています(内2名は専門医)。正常分娩も数多く扱っており、大学病院でありながら一次から三次救急までの診療を行っているのも特徴の一つです。軽症患者から、救急搬送、他院からの転院搬送依頼など、様々な救急患者の対応を研修する事も可能です。当直医の負担軽減のため、当直翌日は当直業務終了後に帰宅できます。

一人でも多くの方が自治医大産婦人科で研修されることを祈っております。随時、医局の見学を受け付けております。お気軽に電話もしくはメールでお問い合わせください。

TEL : 0285-58-7376

jichi-obgyn@jichi.ac.jp

【産科婦人科学講座ホームページ】

<https://www.jichi.ac.jp/usr/obst/>



耳鼻咽喉科

生きるを彩る医師になろう 耳鼻咽喉科・頭頸部外科医にできること

すべての人が
聴く・嗅ぐ・味わう・話すという
人間らしい生活を送れるように。

So that, all may hear, smell,
taste and speak!



多彩な選択肢
内科も外科も全て自分でできるのが
耳鼻咽喉科・頭頸部外科です。

誰かに任せるのではなく
診察から手術まで全てを
自分の手で、技術で、アイデアで。



内科系分野：難聴・耳鳴、顔面神経麻痺、音声・嚥下障害、めまい、感染症（中耳炎・扁桃炎・鼻副鼻腔炎）アレルギー性疾患、味覚・嗅覚障害、睡眠時無呼吸症
外科系分野：内耳・中耳・喉頭のマイクログラフト手術、人工聴覚器（人工内耳）手術、音声・嚥下機能改善手術、副鼻腔のナビゲーション下内視鏡手術、頭頸部腫瘍手術、甲状腺手術、頭蓋底・上縦隔手術など

先端の研究課題：耳・聴覚、喉頭・音声、頭頸部癌の各分野で、先端研究を進めています



豊富な臨床経験を積みます
一緒に、耳鼻咽喉科・頭頸部外科で
医師をはじめよう

自治医科大学耳鼻咽喉科 <http://www.jichi.ac.jp/oto/index.html>
連絡先 makoto-ito@jichi.ac.jp

脳神経外科

自治医科大学脳神経外科学講座は、アットホームな雰囲気の中、各医師が自由に活動していますが、よりよい脳神経外科診療を提供するという共通理念で強くまとまっております。

現在、大学附属病院に求められる医療水準は極めて高いものであり、当講座は脳神経外科の全領域において最先端の診療を提供しています。一方基幹病院に求められる臨床レベルの高まりに伴って、本邦では研究の質や論文数の低下が危惧されています。しかし、臨床の質を高め維持するために、研究活動は欠かすことのできないものであることは言うまでもありません。当講座では、日々の脳神経外科診療だけでなく、高いレベルの臨床研究・基礎研究も行っています。

日本の医学と医療は、専門医制度、医療安全管理や研究倫理における大きな変革に直面しています。このような変革に的確に対応しつつ、講座をさらに発展させるために、共に歩んでくれる若い力は常に大歓迎です。

当講座における臨床診療の特徴について

脳神経外科診療の全領域に充実したスタッフを擁し、国内最高水準の脳神経外科治療を提供しています。脳血管障害・脳卒中に対しては、脳動脈瘤・脳動静脈奇形の手術、頭蓋内外動脈バイパス術、頸動脈内膜剥離術などの手術治療はもちろん、脳卒中センターや脳血管内治療部門と地域密着型の脳卒中診療体制を確立し、急性期から回復期までカバーします。

てんかん外科・脳深部刺激療法・下垂体手術・小児脳神経外科などでは、北関東のセンター的存在です。当院は、全国17の包括的てんかん診療施設の1つで、てんかんに対する高度医療を含めた包括的な診療を行っている拠点です。てんかん外科では乳児から成人まで、症例に応じた最適な治療を提供します。大脳半球離断術や脳梁離断術などの特殊手術、海馬多切術、迷走神経刺激療法、深部電極と硬膜下電極を併用した頭蓋内モニタリングなど、全ての手技について国内最高水準の治療を行います。

パーキンソン病などの不随意運動に対する脳深部刺激療法も多数行われ、定位手術では、遺伝子治療部や小児科と連携した国内有数の遺伝子治療の拠点となっています。脳腫瘍治療ではコンピュータ技術や画像解析を応用した低侵襲・機能温存を重視した手術治療を実現、術中ナビゲーション・3D拡張現実を応用した術中支援などの技術は国内トップクラスです。機能温存のための術中モニタリングも生理機能部門の支援のもと極めてスムーズに行われ、覚醒下脳腫瘍摘出術、神経内視鏡下摘出術、耳鼻咽喉科・形成外科と合同での大規模頭蓋底手術、なども数多く施行しています。

当講座における研究活動

機能的神経外科分野では、脳深部電極による局所フィールド電位記録を応用した脳深部領域の神経細胞群活動の評価や光トポグラフィーを用いた脳卒中患者の神経特性解析とリハビリへの応用の研究など精力的に活動しています。

脳脊髄腫瘍分野では、グリオーマにおけるIHD（イソクエン酸デヒドロゲナーゼ）遺伝子に関する研究を中心に、臨床応用し、より優れた脳腫瘍治療を行っております。脳血管内治療部門は、症例ごとの3D血管モデルを作成、流体力学の研究や手術シミュレーションに役立てています。

3Dモデルを用いた手術シミュレーションについては、非常に幅広く研究が行われ、個々の症例に合わせて術前シミュレーションや術中検討に役立てています。さらに、特殊なモデルを作成して医学生や研修医の訓練にも応用しております。



当教室の医局員の出身大学は様々で、偏った学閥などありません。それぞれの専門分野で全員が力を合わせて仕事をしています。脳神経外科は救急医療においても重要な役割を果たしており、脳血管障害の症例が豊富なことはもちろんですが、加えて脳腫瘍・機能的脳神経外科・小児脳神経外科・血管内治療など幅広く診療を行い、症例も非常に豊富です。

脳神経外科は多忙ではありますがとてもやりがいがあります。少しでもご興味のある方は、自治医科大学脳神経外科ホームページをご覧ください。病院見学なども随時受け付けておりますので、お気軽にご相談ください。

脳神経外科HP：<http://www.jichi.ac.jp/brain/top.html>



連絡先：自治医科大学 脳神経外科
329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1
Phone: 0285-58-7373, Fax:0285-44-5147
E-mail: s-neuro@jichi.ac.jp

麻酔科

初期研修医の皆さん、いかがお過ごしでしょうか？当院麻酔科についてご紹介いたします。

当院の総麻酔件数は年間約 10000 件で、うち麻酔科管理症例が約 7000 件あり、大学病院として初めて子ども病院を併設したことから、症例も新生児から超高齢者、common disease から特殊疾患とバラエティーに富んでいます。これらを周術期センターの中心役割として、術前から術後まで広範囲に担当しています。周産期センターもあり帝王切開の多さも大学病院有数で、専門医取得に必要な各分野の症例を単独施設で経験できる全国でも数少ない施設です。後期研修では下表の

ように研修レベルがステップアップします。

専門医プログラムでは硬膜外麻酔、分離肺換気、産科麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔、ICU・PICU ローテーションなどを 2 年の間に経験し、厚労省指定麻酔科標榜医、学会認定医を取得します。続いて麻酔科術前診察外来、ペイン外来を経験しバランスのとれた麻酔関連業務を身に付け、機構専門医取得を目指します。ぜひ皆さん、自治医大麻酔科を見学に来てください。小児麻酔・集中治療・小児・成人心臓麻酔、神経ブロックなど各分野のエキスパートも豊富で、サブスペシャリティの選択に関しても十分な教育が受けられると確信しています。

クラス	目 標	対象手術	修得手技	関連領域
初期研修	・基本手技(マスク換気+経口挿管)を修得し、上級医指導下にPS :1・2症例の麻酔管理を行う。	耳鼻科, 整形外科, 乳腺, 婦人科, 消化器外科, 泌尿器 (開腹/腹腔鏡)	麻酔器準備, マスク換気, 経口挿管, 脊髄くも膜下麻酔, A-line挿入	
1年目前期	・基本手技を習得の上で, PS:2症例の麻酔計画を立て, 上級医の指導下に麻酔管理を行う。	外科(肥満手術・肝切除等), 腎移植レシピ (1st), 帝王切開 (CSEA), 開胸(呼吸器), 開頭, 小児	緩徐導入, ファイバー挿管, 分離肺換気, CV挿入(内頸静脈), 硬膜外麻酔, 神経ブロック(体幹), MEP管理	
1年目後期	・循環・呼吸動態の変動の大きい手術で起こる変化を予測し, 上級医の指導の下に麻酔管理を行う。	乳児, 帝王切開 (全麻), 開胸(食道), 心臓麻酔(ステント, Yグラフト), 生体肝移植レシピ (2nd)	CV挿入(鎖骨下静脈), 神経ブロック(四肢)	
2年目前期	・PS:3症例の麻酔計画を立て, 上級医の指導下に麻酔管理を行う。	乳児(複雑症例), 新生児, 生体肝移植レシピ (1st), 成人心臓麻酔(開心術2nd)	意識下ファイバー挿管, S-G挿入, 中級神経ブロック(その他等)	ICU ローテーション
2年目後期	・PS:3症例の麻酔管理を独力で行う。 ・気道確保困難症例を予想し準備を行う。	成人/小児心臓麻酔(開心術1st), 検査室での麻酔	上級神経ブロック	PICU ローテーション
3年目	・PS:3E症例の麻酔管理を行う。 ・DAMを理解し応援到着までvitalを維持する。	特殊手術の麻酔 状態不良症例の準備と対応	気道緊急, アナフィラキシー, 大出血等の急変対応, ペイン外来	術前外来 (標榜医取得後)
4年目	・PS:4E症例のコマンダーとなる。 ・DAMを理解し気道確保困難に対応する。	突発事象 (CVCI, CPA)への対応	コマンダーとしての役割	専門医試験受験

※標榜医取得以降は、麻酔計画の作成を責任をもって行い、自力完遂することを目標とする。 ※ ASA PS : アメリカ麻酔学会術前全身状態分類
※本プログラム及び個別プログラムは、症例数や個々の経験をもとに定期的に見直す。 ※ DAM : Difficult Airway Management

ローテーションした研修医の声

●麻酔科入局 1年目後期研修医

様々な症例を経験出来、充実した毎日を送っています。上級医に相談しやすく、丁寧な指導とフィードバックを受けられるため、着実なステップアップを実感できます！on/offがはっきりしているため自分の時間を持ちやすいのも魅力の一つです。ぜひ一緒に成長しましょう！

●外科系志望 2年目研修医

呼吸状態、循環管理の把握や、他科ではなかなか学びにくい鎮静、鎮痛についても学ぶことが出来、大変勉強になります。上級医の先生が丁寧に教えてくれるので、様々な手技も安心して学ぶことが出来、自分が成長できているのを実感し自信につながっていきます。自分は将来外科医になることを考えていますが、薬の準備から、気管挿管、術中管理の経験は今後の土台となると強く感じています。共に様々な症例を経験し、スキルアップしていきましょう！



当科 HP は <http://www.jichi.ac.jp/usr/anes/>
2024 年度プログラムは審査中、2023 年度分は
<https://anesth.or.jp/users/program/2023/detail/6256159b-d270-46ac-9ce9-11fe9dcdd4c6>
で見られます。見学希望などは
麻酔科医局 (aneikyok@jichi.ac.jp) まで。

“患者にとって最良の麻酔・周術期医療を！”

小児科

初期研修医の皆様，自治医科大学小児科教授ならびにとちぎ子ども医療センター長の小坂 仁です。当センター小児科の専門研修について紹介します。



当センターの研修には，3つの大きな特徴があります。まず1つめは，当センターは，子ども病院として小児総合医療機関としての機能を持っているため，県内だけでなく，

北関東全域や東北地方からも患者さんが来院されます。そして，当センターでは，世界的にみても先進的な医療を率先して行っています。例えば，今後治療法として発展してくる希少疾病に対する遺伝子治療に，臨床研究の段階から積極的に取り組んでいます。また，高度な医療技術が要求される先天性心疾患治療においては，小児循環器医，小児麻酔・集中治療医，小児心臓血管外科医が連携して，小児集中治療部（PICU）にて診療を行っております。一方で，小児科総合診療部外来には気管支喘息発作や急性胃腸炎が受診されます。このように，高度な先進医療を必要とする疾患から common diseases まで，幅広い臨床経験が積みあがります。多彩な疾患が集まってくるので，当院での研修で，専門医取得の際の症例数で困ることはまったくありません。当科では，子どもには全人的な診療が重要と考えており，小児疾患のすべての分野への診療体制をもち，共同して診療しています。各専門診療班同士の連携はスムーズで，また外科系診療科目も非常に充実しており，当センターで診療を完結できる医療体制を構築しております。また，当センターは大学併設型の強みを活かし，大学附属病院の成人各科と密に連携して小児では経験が少ない疾患への先進的な医療などにも取り組んでいます。

2つめは，大学併設型の子ども病院としての特徴を活かし，高いレベルの研究も併せて可能です。たとえば，

基礎系講座や成人診療各科との共同研究も盛んです。そのため，専攻医として研修を行いながら研究を開始することが可能なので，キャリアパス形成には不安がありません。つまり，臨床，教育，研究のバランスが取れていることが当センター小児科の特徴です。是非とも，ベッドサイドで出会った診療の疑問を研究して，世界に発信しませんか？

3つめは，さまざまな大学出身者が集まるということです。自治医科大学の卒業生は出身都道府県での卒業義務履行があるため，卒業後は母校に残りません（数名の栃木県出身者を除き）。そのため，とちぎ子ども医療センターのスタッフは，日本全国から集まり，日々切磋琢磨しながら臨床・研究・教育に従事しています。皆様の活躍できる場所がここにあります。

是非研修にいらしてください。

小児科スタッフ一同，皆様をお待ちしています！



【小児科ホームページ・連絡先】

<http://www.jichi.ac.jp/usr/pedi/wp/index.html>

メール（担当）：dtamura@jichi.ac.jp（田村宛）

新しい専門研修制度は2017年度から実施され，2023年度のプログラムを公開しています。

<https://www.jichi.ac.jp/usr/pedi/wp/>

【卒後臨床研修センターホームページ】

<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

精神科

Offenem Geist

はじめまして、自治医科大学精神医学講座教授の須田 史朗です。

表題は自治医科大学精神医学講座のモットーとしている言葉で、初代の故宮本忠雄教授より受け継いだものです。ハイデルベルク大学の講堂入口に掲げられている文字で、学問が「開かれた精神」に差し



向けられているものであることを告げています。講座の特徴は、精神病理学、芸術療法（絵画療法、コラージュ療法、音楽療法）、集団精神療法、比較文化精神医学、病跡学から、分子精神医学、精神薬理学、精神生理学などの生物学的研究、疫学、産業精神医学にまで広がる極めて幅広い研究領域を持っていることにあります。私達は“Offenem Geist”の基本理念を軸に、患者さんを師として学びつつ、教室員各自の個性と感性を自由に伸ばし、精神医療の新たな展開を目指して頑張っていきたいと考えています。志を同じくする多くの皆様の教室への参加を心よりお待ちしております。

研修プログラムの概要

自治医科大学附属病院は 31 床の精神科病床と 15 床の児童精神科病床を有しています。病床は開放病棟（児童精神科は閉鎖）で、気分障害圏を中心に栃木県内や近隣の医療機関から合併症症例、治療抵抗例を幅広く受け入れています。近年では、超低体重を伴う重症摂食障害や発達障害合併例が増加しています。また認知症疾患医療センターを併設しています。

プログラムの一年目は自治医科大学附属病院精神科での研修となります。二年目以降は主に連携施設での研修に進みます。総合病院精神科、公的精神科病院、単科精神科病院との連携を行っており、それぞれの施設は特色（精神科救急、依存症、医療観察法、訪問診療、児童精神医学、老年精神医学、精神病理学、芸術療法）が際立っていますので、将来的な専攻領域の希望により選択が可能です。また、大学院博士過程への進学についても随時受け入れを行っています。



研修プログラムの特徴

自治医科大学附属病院精神科の外来患者数は全国大学病院の中でもトップクラスにあります。地域的な理由で近隣の病院数が少ないためプライマリ・ケア医療施設としての機能を兼ね備えており、common disease から専門的疾患、希少疾患に至るまでの幅広い症例の経験が可能です。全体的な方針としては、早期介入による早期回復を目指した治療を心がけており、専攻医は画像診断（MRI、SPECT）、生化学的検査、心理検査、詳細な病歴聴取に基づくアセスメント、薬物療法（クロザピンを含む）、各種精神療法、電気けいれん療法、経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）などを組み合わせた最新・最善の治療を学ぶことができます。rTMS につきましては、機器の更新を行っており、2021 年 1 月より保険適応機器（Neurostar）が導入されました。また、2023 年度には睡眠ポリグラフ検査機器が整備される予定です。

精神科では治療と同時にリハビリテーションや環境調整を開始することが重要です。治療方法や介入手段を選択する際に、行き過ぎたパターンリズムは問題となりますが、判断に迷う時に私達は少し「おせっかい」な選択肢を選ぶようにしています。

自治医科大学は女性医師の支援体制が充実しており、産休・育休制度を随時利用することができます。育休制度は男性医師も利用可能です。院内にはファミリーマート、スターバックスコーヒー、書店があります。

アメニティは充実しており、医局内には当直明けの医師のための休憩室やデロンギ製全自動エスプレッソマシンが整備されています。

医局には多様性を歓迎する伝統があり、様々な才能やバックグラウンドを持つ医局員がそれぞれ幅広く活躍しています。また、海外留学の経験を持つ医師も多く、多くの医局員が海外で研鑽を積んでいます。

是非一度見学にいらして下さい。おいしいコーヒーを準備してお待ちしています。



連絡先

- ・精神医学講座ホームページ
<http://www.jichi.ac.jp/psyc/>
- ・メール
精神科医局 psychiat@jichi.ac.jp
- ・卒後臨床研修センター ホームページ
<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

整形外科

当院は JR 宇都宮線の自治医大駅より徒歩 10 分のところにあり、敷地内に研修医専用の宿舎を完備しております。当科は、脊椎班、関節班（肩・股・膝・スポーツ）、外傷班、小児班に分かれております。脊椎班ではナビゲーションシステムを駆使した高度な手術から最小侵襲手術として脊椎内視鏡手術まで幅広く行っております。肩関節・スポーツ班では、県内の野球肘検診を行い、若年者からの肘の故障を防止する取り組みを行っております。また、肩・股・膝関節の人工関節、関節鏡手術にも取り組んでおります。小児班では、側弯症・内反足・先天性股関節脱臼といった疾患にも対応しております。リハビリテーション科との連携も密に行っております。外傷は、骨盤外傷を含めた重度外傷に対しても積極的に取り組んでいます。月に 1 度県内の主要病院のドクターを含め、骨折勉強会を開催しております。

後期研修の方のための新しい専門医制度は、2018 年度から実施されています。新専門医制度のプログラムは公開されており、こちらをご覧ください。

<https://www.jichi.ac.jp/usr/orth/resident04.html>

〈後期研修 1 年目〉

本院で整形外科医 1 年目として 1 年間の研修を行います。パーツによって班が分かれているため、3 か月ごとに各チームを研修し、学んでいきます。この間に基本的な整形外科手技・プレゼンテーション・学会発表の仕方・論文作成を学びます。

〈後期研修 2-4 年目〉

関連病院に出向し、外傷を中心とした研修を積んでいきます。4 年修了時に専門医試験を受けられるようにプログラムを組んでおります。大学院博士課程への進学を希望する場合には、通常の大学院か社会人大学院かのいずれかを選択し、試験を受けていただきます。試験は年 2 回で入学は 4 月からとなっております。

順調に研修が済み、学会指定の単位の取得・学会発表・論文発表が済んでいれば、4 年目に専門医試験の受験資格を満たします。書類を提出し、試験に合格すると晴れて整形外科専門医になることができます。2018 年より導入された新専門医制度では、大学を含めた研修指

定病院で 45 単位を取得することがこれまでの研修と違う点となります。

〈後期研修 5 年目以降〉

大学に戻り、整形外科の中で専門を決めてさらなる研鑽を積んでいきます。希望者には、国内留学・国外留学を斡旋していきます。

到達目標

まずは、整形外科専門医を取得します。脊椎・関節・小児整形・手外科・外傷・骨軟部腫瘍・スポーツドクター・リハビリテーションなどの各専門分野に進む前段階として、整形外科全般に及ぶ知識、技能を身につけてもらいます。多くの指導医や関連病院で学ぶことで人間性やコミュニケーション能力も養って下さい。

整形外科スタッフです。皆様をお待ちしています！



【整形外科学講座ホームページ】

詳しくは <http://www.jichi.ac.jp/usr/orth/> をご覧ください。

【連絡先】

〒 329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

自治医科大学整形外科

担当：西頭知宏

TEL：0285-58-7374

FAX：0285-44-1301

e-mail:otpdcast@jichi.ac.jp

プログラムの目的

眼科疾患は小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、内科的治療だけでなく外科的治療も必要とし、幅広い医療技能の習得が求められています。自治医科大学眼科専門研修プログラムでは、以下の眼科医の育成を目指します。



教授 川島 秀俊

1. 一般眼科学に精通し、専門性の高い眼科治療にも対応できる眼科医
2. 一般診療所の医師のみならず総合病院の眼科医としてやっていけるだけの必要かつ十分な技術を身につけ、将来地域で活躍できる眼科医
3. 診療技能のみならず、学会発表や論文作成を通じて科学的に思考できる眼科医

指導医と専門領域

専門研修基幹施設：自治医科大学附属病院眼科
(年間内眼手術 2,552 件、
外眼手術約 300 件、
レーザー手術約 1,500 件)

プログラム統括責任者：川島秀俊 (診療科長)

指導医管理責任者：川島秀俊 (診療科長)

指導医：川島秀俊 (教授、診療科長)

高橋秀徳 (准教授、副科長)

(網膜硝子体、ぶどう膜)

新井悠介 (准教授、医局長) (白内障)

伊野田悟 (講師、外来医長) (他科診療連携)

渡辺芽里 (講師) (角結膜)

恩田昌紀 (助教) (緑内障)

粕谷友香 (助教) (屈折矯正、弱視・斜視)

長岡広祐 (助教・病棟医長)

(神経眼科、眼窩・眼附属器)

自治医科大学附属病院眼科では、幅広い分野の紹介患者があり、令和4年の手術件数は内眼手術約 2,552 件 (網膜硝子体 861 件、白内障 1,309 件、その他緑内障、角膜移植など 382 件) 外眼手術 300 件、レーザー手術 1,500 件と眼科専門医が研修すべきほぼすべての手術を多数施行しています。主治医グループ 1 (角結膜、緑内障、白内障、弱視、斜視、小児眼科) と、主治医グループ 2 (網膜硝子体、ぶどう膜、他科診療連携) にわかれ、各グループをローテーションします。ロービジョン、遺伝相談等は、臨床遺伝専門医でもあるプログラム統括責任者が指導します。各プログラムの疾患の基本について研修を行い、基本的検査、診断技術および処置を習得し、それぞれのプログラムの到達目標を目指します。毎週行っている症例カンファレンスにも参加します。周産期母子センター、外来化学療法センター等を備えた医師臨床研修指定施設なので、他科との連携委員を中心に、あらゆる全身疾患に関わる眼病態も経験することができます。また、学会報告や論文作成の機会も豊富にあります。当院での研修期間中は、こうした活動の機会を得やすいよう配慮しています。

ホームページ：<http://www.jichi.ac.jp/opht/>

メール：川島秀俊 hidemeak@jichi.ac.jp

または眼科医局 ophthal@jichi.ac.jp



泌尿器科

全国の医学生・初期研修医の皆様、こんにちは。自治医科大学 腎泌尿器外科学講座主任教授の藤村哲也です。ロボット支援手術は当たり前前の時代ですが、私のセールスポイントはロボット支援根治的前立腺全摘除・腎部分切除術・根治的膀胱全摘除術 1,500 例を超える経験です。”1500 例を 20 例で伝える“を目標に日々、若い先生に技術の伝承を熱心に行っています。

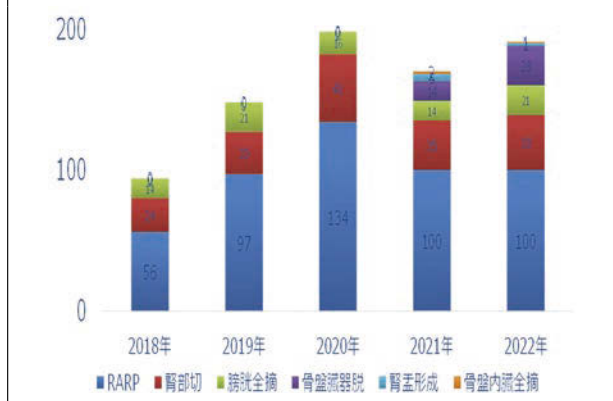
レジデントのロボット支援手術実施風景



例えば、泌尿器科ロボット支援前立腺全摘除術 (RARP: robot assisted radical prostatectomy) では“60 分でできる RARP”を目標に術者、助手の手術工程別の役割を記した音声入り動画マニュアルを基本編とし、複雑な症例に対する応用編などのビデオクリップを多数共有し学習環境の整備を行っています。またこれまで浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘除術は手術時間が長く、出血量も多いというイメージでしたがロボット手術の導入で大きな変革を迎えています。”4 時間でできるロボット支援膀胱全摘除術、完全腔内尿路変更術 (RARC ICUD) “も作成し、RARP を習得後の教育も充実しています。専門医取得前の医師でも約 40 例の RARP、5-10 例程度の RARC が経験できます。

当院では da Vinci Xi を 2 台有し、年間で約 200 例のロボット支援手術を実施しており、前立腺癌だけでなく、腎癌、膀胱癌、骨盤臓器脱、腎盂尿管移行部狭窄症なども実施しており症例が比較的豊富にあります。さらに、シミュレーター Mimic と da Vinci Xi による定期的な実機練習が行えるため、効率的なトレーニングが可能です。

ロボット支援手術実績



また、ロボット手術の他にも私共の講座の全国に誇れる特徴は、成人泌尿器科、小児泌尿器科、腎移植と幅広く対応しているところです。成人泌尿器科では、腎・尿管・膀胱・前立腺・精巣の癌、前立腺肥大症や神経因性膀胱などに伴う排尿障害、男性不妊症、尿路性器感染症、尿路結石、副腎、後腹膜疾患などの診断・治療を精力的に行っています。

停留精巣、水腎症、夜尿症、膀胱尿管逆流などの小児泌尿器疾患に関しては、自治医科大学とちぎ子ども医療センターにおいて小児泌尿器専門医が診療にあたっております。

腎臓外科学部門では腎移植、腹膜透析カテーテル留置術、シャント造設術などの腎不全領域の治療を行っています。このようにひとつの講座が、臨床において三つの診療ユニットに分かれ、有機的な連携をもった研修システムは国内に類をみません。そのような利点を生かして、腎泌尿器外科学分野において最先端の医療を研修することが可能で、将来様々な分野で活躍できるスペシャリスト育成を目指しています。

基礎的研究では次世代シークエンサーを用いて難治性前立腺癌に関与する遺伝子発現および機能解析、腎細胞癌に対する遺伝子治療、尿酸カルシウム結石産生抑制機序の解明、尿路再建における再生医学などの研究を行っています。

平成 24 年度完成したレジデントハウスは完全個室で冷暖房、洗濯機、冷蔵庫、インターネット回線が完備され、さらに駐車場、スポーツジムも敷地内にある家賃 1 万円台と充実しています。東京都の上野駅から 50 分、東北新幹線の小山駅で JR 宇都宮線に乗り換えた二つ目の自治医大駅にあり、東京、横浜で開催される学会にも容易に参加できます。

日本泌尿器科学会からの資料では栃木県での泌尿器科専門医数は 88 名で、人口 1,000 人に対し 0.045 と全国 47 都道府県の中で 38 番目であり泌尿器科専門医が大変不足しています。ぜひ、栃木県で泌尿器科専門医として一緒に活躍しましょう。

大学院に進学し課程博士はもちろんのこと、私も論文博士ですが、大学院へ進学せず、英語論文執筆にて医学博士となれる体制も取っています。学位取得後の海外留学の機会を作っています。ぜひ！後期研修に自治医科大学 腎泌尿器外科学講座にお越しください。明るく、元気に働くスタッフ一同お待ちしております。

コロナ禍前に実施したレクリエーション



見学随時実施しています。お気軽に腎泌尿器外科学まで <urology@jichi.ac.jp> メールください。

HP : <http://www.jichi.ac.jp/uro/index.html>

放射線科

画像診断部門

全国の初期研修医の皆さん、こんにちは。自治医科大学医学部放射線医学講座教授の森壘です。

放射線診断学では、すべての年代にわたる全身の臓器や器官におきる疾患を対象としています。また、最新鋭の MRI から単純 X 線装置まで、様々な検査装置を使います。そのため、一人前の放射線科医になるには幅広い知識と経験が必要となります。放射線診断医は、高い専門性を備えた Generalist であり、その育成のためには特別なプログラムが必要です。また、放射線科研修プログラムを選ぶ際には他科の研修プログラムを選ぶのとは違う視点を持つことが大切です。一人前の放射線科医となるには以下の 3 点が必須です。



①**経験**：多数の症例の読影・検査の立案と監督・IVR などの実技の実践
②**知識**：疾患全般・被ばく・放射線物理学など幅広い放射線医学の知識
③**人間性**：他科の医師・大勢のコメディカルとのコミュニケーションスキル

- ①**経験**：多数の症例の読影・検査の立案と監督・IVR などの実技の実践
- ②**知識**：疾患全般・被ばく・放射線物理学など幅広い放射線医学の知識
- ③**人間性**：他科の医師・大勢のコメディカルとのコミュニケーションスキル

放射線診断学の研修プログラムを選ぶにはポイントが 3 つあります。

- ①指導医の質と研修プログラムの透明性
- ②疾患の多様性と放射線科設備の充実度、コメディカルのサポート
- ③各種セミナー・研究会・勉強会への良好なアクセス

自治医科大学放射線医学教室にはその 3 つがそろっています。

- ①熱意あふれる若い指導医と明確な研修プログラム
- ②国内有数の症例数と最新鋭の装置・多数の診療放射線技師と看護師の業務サポート
- ③各種学会・セミナー・研究会へのフリーアクセスと参加費・交通費の支給

**放射線科一同、
皆様をお待ちしています**

放射線治療部門

放射線治療科教授の白井克幸です。近年、がん治療における放射線治療の役割はますます大きくなっており、放射線治療件数は年々増加しています。自治医科大学附属病院では年間約 900 名の治療患者数となり、IMRT や定位放射線治療などの高精度放射線治療も数多く施行しております。



現在、自治医科大学附属病院付帯施設整備事業の一環として放射線治療棟を建築中であり、最先端の放射線治療装置を導入予定となっています。これまで以上に、安全でかつ効果的な高精度放射線治療を提供できるよう取り組んでいきます。当施設で研修する先生においては、私たち治療専門医の指導のもと、多くの症例を経験することが可能です。近年の放射線治療技術の発展は目覚しく、特にこの 10 年で放射線治療機器や計画装置の精度は高まり、治療成績は改善しています。高精度な放射線治療を提供できる体制を整えるためには、医学物理士・診療放射線技師・看護師の皆さんと協力することが不可欠です。放射線治療部門はチーム医療を推奨し、より安全で、かつ効果的な放射線治療を提供できるよう、日々最善の努力を行っています。当施設で研修を積む先生には私たちチームの一員となっていただき、放射線治療医として必要な知識・経験をしっかりと学ぶことができることを約束します。

放射線治療医を目指す研修医の皆さんへ

自治医大の放射線科では診断と治療の両方を効率よく学ぶことができ、新専門医制度にも対応可能なプログラムを用意しています。放射線治療専門医を取得できる教育体制を充実するとともに、当教室では国外での学会発表や、英語論文の執筆を推奨します。希望者には、当施設とも連携している国内有数の治療施設において、重粒子線や陽子線治療の研修や、国内留学をすることも可能です。また、放射線治療学・放射線腫瘍学の深淵をより科学的に探究するために、博士号取得や海外留学のコースも教室としては全力でサポートします。私たちと一緒に栃木県の、そしてこれからの日本の放射線治療を変えてみませんか？

【放射線医学教室ホームページ】

詳しくは <http://www.jichi.ac.jp/radiol/index.html> をご覧ください。

【卒後臨床研修センター ホームページ】新専門医制度の案内や募集についての情報が掲載されています。

<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

【連絡先】放射線医学教室もしくはメールで、是非お気軽に御連絡下さい。jichi-radiology@jichi.ac.jp

救急科

全国の病院で初期臨床研修中の皆さん、こんにちは。自治医科大学附属病院 救命救急センター長の間藤卓です。

平成 29 年度から始まった専門研修プログラム制度、皆さんはこれから自分の進路について色々悩んでいることと思いますが、その中に救急という選択肢はあるでしょうか。



皆さんの救急科のイメージはどんなものでしょうか？ 24 時間休むことなく働き続け、どんな疾患に対しても的確な判断、そして迅速な処置。もちろんそうなりたいと感じる事はありますが、TV ドラマに出てくるような超人的な医師は存在しません。当センターは「働きがいのある救急」をめざし、教育体制からワークライフバランスまで、多彩な QOL（クオリティ・オブ・ライフ）と多様な価値観という視点から環境整備を続けています。また、現代医療の専門化・細分化が進んでいる今、多様な症例と向き合うために、「救急」は、医師としての総合的な力、広い視野と社会性を身に付ける貴重な機会となります。

敗血症ショック、中毒、外傷など中等症から重症まで、幅広く多彩な臨床経験ができる場であり、俯瞰的な視点と複合的な判断力が問われる職場で症例を重ねることは、医師としての臨床能力を高め、今後のキャリア形成に大きく役立ってくれると思います。

救急のプロフェッショナルを目指す人はもちろん、現在の医師として足りないものを補う



ための一時期の " 修行 " としても、非常に有意義な経験ができるはずですよ。

いろいろな人が居るからおもしろい・・・みなさんの医師人生をより充実させるためにも、ぜひ私たちの施設を活用してみてください。



救命救急センター前で集合写真

【救急医学講座ホームページ】

詳しくは、<http://www.jichi.ac.jp/emergency/> をご覧ください。

【卒後臨床研修センター ホームページ】新専門医制度の案内や募集についての情報が掲載されています。

<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

【連絡先】救急医学講座もしくは各診療科のホームページをご確認の上、是非お気軽に御連絡下さい。

メール：eccm@jichi.ac.jp

リハビリテーション科

初期研修を終了予定で、今後の専門研修について考慮されている方たちに当院のリハビリテーション専攻医プログラムについて紹介したいと思います。

リハビリテーション専攻医は、病気や外傷、加齢などによって障害を抱えた患者が、活動性を向上し、社会参加に向けてのリハビリテーションを達成できるよう総合的に支援する役割を担っています。診療にあたっては、特定の臓器や疾患を超えて総合的な診療能力取得を基本として、障害に関する知識、診断はもとより、外科的治療、内科的治療、物理的治療（放射線治療、理学療法）、機能代償による治療（義肢・装具、住宅改修など環境整備）、社会保障制度について知る必要があります。

当院のリハビリテーション専攻医プログラムでは急性期から慢性期、診断から治療に至るまで標準的な医療を実践でき、患者から信頼されるリハビリテーション専攻医となるよう十分な知識と経験を身に付けるための構成となっています。自治医科大学附属病院と栃木県内にある3つの連携施設とが密に連絡を取りあい、研修医の希望を取り入れながら修練を進めていきます。当院のプログラムで研修を行うメリットは以下の通りです。

- 1) 自治医科大学は栃木県にある医科大学として高次医療を担当しているため多くの症例が集積し、難治症例や稀少疾患症例を経験することができる。
- 2) 自治医科大学附属病院には基本19領域のすべての専攻医研修プログラムがあるため、お互いの研修を補完でき、サブスペシャリティを習得するのにも有利である。



- 3) 連携施設と協力することで、急性期から慢性期まで、地域完結型の研修が可能となっている。
- 4) 自治医科大学の卒業生は地元で研修するため、レジデントが特定の大学に偏ることがなく、いろいろな大学の卒業生が、自由な雰囲気、環境で研修できる。

- 5) 栃木県は、日光や那須高原などの有名観光地を有し、自然に恵まれている一方、東京にも新幹線で1時間弱で行くことができ、学会や種々の研究会に出席するのにも利便性がある。

リハビリテーションは障害をもった患者さんに対して、それぞれの状態に応じた最大限のADLおよび生きがいを導き出すことを目的とし、現在の医療が健康寿命を重視するようになるにつれ、リハビリテーション医療に対する期待が益々高まってきております。そのような中、リハビリテーション医の数は絶対的に不足しており、早急の養成が喫緊の課題となっております。最近、基本19領域の中で整形外科、外科、小児科はダブルボードによるリハビリテーション専門医取得が可能となり、カリキュラム制での研修対応を行っております。当リハビリテーションセンターも設立50年を迎え、年々拡充、充実を図っているところで、将来を担う専攻医への応募を心よりお待ちしております。随時見学も受け付けておりますので、いつでも連絡ください。

【リハビリテーションセンターのホームページ】

<https://www.jichi.ac.jp/hospital/top/central/09.html>

【卒後臨床研修センター ホームページ】

当院のリハビリ専攻医プログラムが掲載されています。

<http://www.jarm.or.jp/facility/document/11.pdf>

【連絡先】

リハビリテーションセンター准教授 井上泰一

☎ 0285-58-8992 E-mail: hi-kazu@jichi.ac.jp



形成外科

形成外科とは、身体に生じた先天性もしくは後天性の組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な悩みに対して、あらゆる手法や技術を駆使し、組織の機能をより正常に、また形態的にもより美しくすることによって、患者様の生活の質 "Quality of Life" の向上を目指す分野です。外科的な手法を多用しますが、外科診療領域とは別の独立した基本診療領域になります。

自治医科大学での標榜診療科としては、形成外科、小児形成外科、美容外科の3診療科があり、吉村浩太郎教授以下15名の臨床スタッフで診療を行っています。対象疾患としては、頭頸部・乳房再建、顔面神経麻痺、熱傷、難治性潰瘍（フットケア）、瘢痕拘縮、ケロイド、皮膚・皮下腫瘍、切断指、顔面骨骨折、顎変形症、リンパ浮腫、口唇口蓋裂、指の先天異常、耳の先天異常、頭蓋縫合早期癒合症、眼瞼下垂、レーザー治療（あざ、しみ）、脂肪移植（再建）、さまざまな美容手術などがあげられます。

当科の研修には大きく3つの特徴があります。

一つ目は、偏りのない症例が数多く経験できるということです。都心の場合、研修施設は多いですが、各施設の得意専門分野に特化する傾向があり、経験できる症例が偏りがちになります。当院は栃木県の随一の特定機能病院であり、北関東や南東北から数多くの患者さんが来院されています。そのため、対応する疾患の種類も多様であり、専門医取得時にも経験症例不足で悩むことはありません。特に穿通枝皮弁やマイクロサージャリーを利用した腫瘍切除後の再建手術、顎変形症に対する上下顎骨切り手術、及び乳房欠損に対する脂肪移植術やハイブリッド手術など、他施設ではなかなか経験出来ないような症例も数多くあります。

二つ目は、自治医科大学にはとちぎ子ども医療センターという全国唯一の大学病院併設型小児病院があるため、先天異常の症例を多く経験できることです。すなわち、唇顎口蓋裂、頭蓋骨縫合早期癒合症、先天性眼瞼下垂、様々な耳介変形、手指・足趾の先天異常など、小児形成外科領域を深く学び習得することができます。先駆的治療も多く、例えば、外固定式ヘルメット型延長器を用いて頭蓋を拡大させる治療（MCDO法）などを行っています。

三つ目は、充実した研究施設であるということです。当施設は臨床研修だけでなく、基礎研究や大学院での教育にも力を入れています。再生医療（皮膚、脂肪、末梢神経、筋肉）、創傷治癒、放射線組織障害、ケロイド・瘢痕の治療、抗加齢医学をはじめとするテーマで、研究専門の研究者（ポスドク）やスタッフ（技術補助員など）を雇用して、先駆的な研究を数多く行っています。専門医を習得した後に大学院に入り、研究に邁進することも可能ですし、希望があれば、後期研修中も臨床と研究を両立させ、科学論文や博士学位取得のための研究に参画することも可能です。科学論文や博士学位の取得の実績は多数あり、頻回にスタッフの指導を受けることができますので、確実に研究を進めていくことができます。さらに、海外の医師や研究者との国際的な交流も活発であり、国際学会に参加、発表する機会も多く、海外留学も積極的にサポートしています。

自治医科大学の卒業生は出身県での義務研修があり、基本的には当院に残ることができません。そのため、他大学出身者が同じ条件でスタートする立場であり、自由闊達な環境の中で研修に励むことができます。2012年に完成した新しいレジデント用宿舎は、完全個室で、インターネット回線、大浴槽、トレーニングルームなど、施設も充実しています。

<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/early/house.html>

見学希望者の皆様をお待ちしております。説明会も随時行っております。

【形成外科学部門のホームページ】当科の詳細に関しては <https://www.jichi.ac.jp/keisei/index.html> をご覧ください。

【卒後臨床研修センターのホームページ】新専門医制度の案内や募集についての情報が掲載されています。

<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

【見学などのお問い合わせ】

吉村 浩太郎 yoshimura@jichi.ac.jp
0285-58-8940

遠方などで見学が難しい医師向けに、個別の Zoom 説明会の申し込みも受け付けておりますので、お気軽にご連絡ください。

病理

病理診断部部长兼病理診断科診療科長の福嶋敬宜（ふくしまのりよし）です。病理診断部は、開学以来、診療の中で生きる質の高い病理診断の実践施設としてリーダー的な地位を築いてきました。現在、診療科としての



病理診断科も標榜し、12名の認定病理専門医、2名の専門研修医、大学院生（博士課程）3名が在籍し、各診療科からの高い要求に応えています。

病理診断は、特に現在のがん診療においては、最終（確定）診断と位置づけられており、スタッフ一同、その重責を自覚しながら、日々仕事を行っています。このため、必要に応じて臨床担当の先生方とも何度も話し合い、時には激論もしながら、患者さんにとって何が適切な医療であるのかを考えているのが病理診断科に在籍する病理医の姿と言えます。以下、当科の概要を紹介します。

- 年間病理検体数は、組織診 15,000 件強、細胞診約 15,000 件、術中迅速診断約 900 件と、国内の大学病院の中でもトップクラスです。
- スタッフの出身大学は様々（現在の状況：宮崎、東京、東医歯、信州、自治、富山医薬、山形、日医、筑波、東女医）で、学閥はありません。
- 専門研修（病理診断医コース）は、3年間のトレーニングで、特殊なものを除き独自に病理診断を遂行できる力を養うことを目標としています。
- 自治医科大学附属病院は、附属さいたま医療センター、栃木県立がんセンター、埼玉県立がんセンター、新小山市市民病院、芳賀赤十字病院、JCHO うつのみや病院などと連携して、それぞれの得意分野による相互補完を図っています。
- その他、臨床家が大学院生（社会人大学院生を含む）として病理学を学ぶ道もあります。

研修に関わる具体的なこととしては：

①病院が地域の総合病院の機能と大学病院としての高

度専門病院としての機能を兼ね揃えているため、一般的な症例からまれな症例まで症例が多彩で、また変な偏りがなくバランスよく症例を経験することができます。

- ②経験豊かな指導医が多く、専門領域（消化器、呼吸器、婦人科、皮膚、腎臓、ほか）もさまざまなので、その道の専門家に、すぐに直接意見を聞くことが出来ます。
- ③学外講師を招待しての「JICHI 病理診断セミナー」も年に数回開催して、その分野の最先端情報を皆で学んでいます。また、一般社団法人 PathPort どこでも病理ラボに参加することで、web を介した全国の病理医との交流により学習機会を増やしています。
- ④臨床各科のレベルが高いことに加え、病理学の指導医には臨床医としての経験を有しているスタッフも多く、病理医の独りよがりではなく、臨床に適切にフィードバックできる病理診断学を学ぶことができます。また、臨床科から定期的に病理診断の研修に来る人たちもほぼ継続的に受け入れています。
- ⑤最初から大学院生となり病理診断学を学ぶ「病理アカデミック・レジデントコース」もあります。

◆他にも良いところ、お薦めのこといろいろあります。ぜひ、下記にメールください。また、可能なら一度直接お越し下さい。

※宿舎や身分・待遇等については卒後臨床研修センターのホームページを参照して下さい。

※病理診断部／病理診断科 連絡先：
電話 0285-58-7186, Fax 同 44-8467
<http://www.jichi.ac.jp/pathology/>
nfukushima@jichi.ac.jp（福嶋）



臨床検査

1. 当講座の特色

当講座の初代主任教授、河合忠先生は我が国において検体検査を中心とする臨床検査医学の礎を築かれた方で、2代目主任教授、伊東紘一先生は我が国における超音波検査学の草分け的存在です。両先輩に導かれ、これまで多くの臨床検査専門医、超音波専門医を輩出しており、その伝統は現在のスタッフに受け継がれ、これらを研修するには絶好の環境にあります。また、学術活動も活発であり、多くの英文原著論文が発表されています。

ところで、臨床検査専門医の identity がはっきりしない、何をやる専門医なのか、とよく話題になります。これは歴史が浅く、identity を確立するまでの実践者が少ない、施設の人事に影響されてきた、その他いろいろな事情によります。従って、施設によってかなり趣に差があることは否定しません。その中で私たちは、臨床検査業務を中心に行いたい方、超音波検査を極めたい方、臨床検査の研究に重心を置きたい方、いろいろな方向性を持った方に対応するつもりです。当施設で専門医をとられた方はスタッフとして残っていただき、診療、教育、研究をバランスよくこなし、大学スタッフとしてキャリア形成できるよう支援していきます。

2. 研修の特色

全体の研修期間は3年です。連携施設には、附属さいたま医療センター、東京都済生会中央病院、埼玉がんセンターがあります。研修は基幹施設である本学附属病院と、連携施設のうちの一つを選択して研修します。まず、当講座と附属病院で、臨床検査医学の総論と生理機能検査全般、超音波検査を学びます。その後3～6ヶ月程度連携施設に出向し、超音波検査と一般検査、または血液検査を学びます。このころには超音波診断技能がある程度身に付きますので、以後は超音波診断業務を行いながら臨床検査全般を研修します。附属病院では、血液像（骨髄像）、免疫電気泳動像の判読を学びつつ、検査報告書を作成するという業務を担います。勿論、臨床化学、微生物検査も研修します。2年目からは研究も同時にスタートします。当講座では、超音波検査技術の開発、血漿蛋白、アミロイドーシス、

血清脂質、腎代謝、などの研究が行われており、それらの研究者についてもいいですし、これら以外のテーマでも学内の他部門と連携して指導します。研究のための時間は十分に確保できます。

3年目に研修が無事修了認定されると、専門医資格認定試験を受験することになります。認定試験は筆記試験と実技またはそれに準じた動画による試験になる予定です。

なお、新専門医制度は初期臨床研修を終えてすぐの方を主な対象にしていますが、当プログラムは、他科からの転向を含め、ベテランになってからでもこの分野に興味を待たれる方も歓迎します。

また、新専門医制度における超音波専門医の位置づけは現在不明確ですが、当講座では、臨床検査専門医と超音波専門医の両者を取得するよう勧めています。

興味を持たれた方は、下記の連絡先に是非相談してください。相談されたからといって強制などはしませんので遠慮なく連絡いただけたらと思います。



【臨床検査医学講座ホームページ】

<http://www.jichi.ac.jp/usr/cpc/clipatho/index.html>

【日本臨床検査医学会ホームページ】

臨床検査全体のこと、専門医のことを詳しく知りたい方はご覧ください。

<http://www.jslm.org/index.html>

【卒後臨床研修センター ホームページ】

新専門医制度の案内や募集についての情報が掲載されています。

<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>

【連絡先】 研修プログラム統括責任者

山田俊幸 yamadanji@jichi.ac.jp

総合診療

自治医科大学では建学以来「医療の谷間に灯をともす」を合い言葉にしてきました。医療の谷間とは、へき地・離島といった地域の谷間に加えて、「総合医」という診療領域の谷間を指すようになりました。最近ではさらに、「地域社会のリーダー」といった地域づくりの谷間に灯をともす人材が求められています。

総合診療専門医の使命は、日常遭遇する疾病と傷害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供するとともに、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看とりなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組み、絶えざる自己研鑽を重ねながら人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応することです。総合診療専門医に欠かせない7つの資質・能力が示されています。

1. 包括的統合アプローチ

地域住民が最初に受診する場では、未分化で多様な訴えや、複数の課題を抱える患者に遭遇します。これらの課題は健康課題だけでなく、医師・患者関係の継続性や多職種との関係性のこともあります。これらを踏まえた医療・ケアを提供する能力を身につけます。

2. 一般的な健康問題に対する診療能力

一般的な症候に対する臨床推論に基づく鑑別診断や、必要に応じて他の専門医・医療職・介護職等と連携をとりながら適切なマネジメントを身につけます。

3. 患者中心の医療・ケア

患者の身に起きている疾病だけでなく、それに対する患者の病（やまい）としての体験、さらには患者の健康観を重視します。この3つの要素を取り囲む家族や地域といった背景要因を踏まえて、医師・患者関係の強化を目指す医療の方法を身につけます。

4. 連携重視のマネジメント

家族、地域、多職種、介護を含む組織全体に対するマネジメント能力を身につけます。

5. 地域包括ケアを含む地域志向アプローチ

医療制度、医療文化その他の現状を把握した上で、地域の保健・医療・介護・福祉事業に積極的に参画する能力を身につけます。

6. 公益に資する職業規範

高い倫理観を持ち、ワークライフバランスを保ちつつ生涯にわたり自己研鑽を積む習慣を身につけます。

7. 総合診療専門研修プログラム

自治医科大学の総合診療専門研修プログラムでは、総合診療内科における病院総合診療研修（総合診療研修II）に加えて、連携施設における地域包括ケア研修（総合診療研修I）を行います。加えて、本院もしくは連携施設における内科研修および救急科研修、連携施設における小児科研修を行います。



指導医研修会・レジデント報告会の様子

研修期間は3年間です。自治医大卒業医師や地域卒業医師など勤務先に配慮が必要な場合には個別に相談に乗ります。また女性医師も安心して研修できる環境を整備しています。総合診療専門医と内科専門医のダブルボード研修が可能になりました。ダブルボードを目指す方のサポートも行います。新・家庭医療専門研修プログラムとの連動研修も可能ですので、家庭医療専門医を取得したい方もご利用ください。さらに、2022年4月から病院総合診療専門医プログラムも導入し、総合診療専門研修や内科専門研修と並行して行うことが可能です。

総合診療専門研修では、プログラム制に加え、カリキュラム制（単位制）も利用できます。本学卒業生や地域卒業医師等で、プログラム制での研修が困難な合理的な理由がある場合には、カリキュラム制の選択も考慮できますので、ぜひご相談下さい。

開拓精神の気概ある医師を求めています。修了後は、本院・関連病院・その他自分の希望するフィールドで、自ら総合医としてだけでなく、地域社会のリーダーとして活躍していきます。

ローテーションの一例

1年目	病院総合診療（6-12ヶ月）		
2年目	内科（12ヶ月）		
3年目	小児科（3ヶ月）	救急（3ヶ月）	地域包括ケア（6-12ヶ月）

【自治医科大学 地域医療後期研修プログラム】

自治医科大学 地域医療人材育成部門

URL：<http://www.jichi.ac.jp/chiikik/>

Email：chiikikenshuu@jichi.ac.jp

お気軽にお問い合わせください。



作成・連絡先

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター 後期研修管理部門
専門研修プログラム連絡協議会

〒 329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

T E L : 0285-58-7252 (直通)

F A X : 0285-44-1155

メール : rinshoukenshu@jichi.ac.jp

H P : <https://www.jichi.ac.jp/hospital/top/resident/>



